

| | |
|------|---------------|
| 研究区分 | 教員特別研究推進 地域振興 |
|------|---------------|

| | | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|------------|----|-------|
| 研究テーマ | プロジェクト・ベースド・ラーニングを活かした地元企業との協働プロジェクト | | | | |
| 研究組織 | 代表者 | 所属・職名 | 経営情報学部・准教授 | 氏名 | 国保 祥子 |
| | 研究分担者 | 所属・職名 | | 氏名 | |
| | | 所属・職名 | | 氏名 | |
| | | 所属・職名 | | 氏名 | |
| | 発表者 | 所属・職名 | 経営情報学部・准教授 | 氏名 | 国保 祥子 |

| | |
|------|--------------------------------------|
| 講演題目 | プロジェクト・ベースド・ラーニングを活かした地元企業との協働プロジェクト |
|------|--------------------------------------|

研究の目的、成果及び今後の展望

① 研究目的

国保研究室では、3年次のゼミ活動をプロジェクト・ベースド・ラーニング形式で実施している。2019年度からは、学外の企業やNPOから与えられた具体的な経営課題をプロジェクト課題としてとり組み、年に2回の公開報告会を開いている。学生のプロジェクト学習に協力いただく地元企業との協働にあたっては、地域のネットワークと支援実績が豊富なNPO法人ESUNEに、協働先の紹介や、プロジェクト期間中の企業との調整などを支援していただいた。プロジェクト学習の内容については教員が指導するが、協働先企業とのラポール形成やコミュニケーションの部分でこのような第三者の支援を得ることでプロジェクト学習をスムーズに実施することが可能になる。

② 成果

2022年度は、前期に一般社団法人草薙カルテッドとNPO法人かけがわランド・バンク、後期にシングルペアレント101、一般社団法人いちご言祝ぎの杜、フジ物産株式会社、株式会社イシダテックと、全6団体との協働プロジェクトを実施した。ESUNE様にはコーディネーターとして、協働先の選定と打ち合わせ、キックオフミーティング、目標設定と大まかなプロジェクトスケジュールの決定、定例ミーティングのサポートといった一連の支援をしていただいた。その結果、すべてのプロジェクトでトラブルなく無事に最終プレゼンテーションまで実施することが出来、学生にとって貴重な学習の機会となった。その他プロジェクト期間中は、ESUNE様には随時学生の相談を受け付けていただき、アドバイスやプロジェクトオーナーとの調整などを行っていただいた。

③ 今後の展望

実際の企業を巻き込んだPBL形式の学習の難しさは、企業側の期待するアウトプットと、学生が実際に出すアウトプットのすりあわせだと感じている。しかし学生は企業とのコミュニケーションに長けている者ばかりではないため、適宜支援をする必要があるが、こうした伴走支援の経験が豊富なESUNE様に依頼することで、実社会でも高く評価される成果と学生への学習効果を両立することが可能になる。そのため今後もこうしたプロジェクトのコーディネーターの力を借りていきたいと考えている。